

9人の議員が市政を問う 一般質問

- 1 竹原真理子 「畜産農家に再度の支援を」…P11
- 2 中川 文久 「TSMC関連での阿蘇市の現状は」…P12
- 3 谷崎 利浩 「基金50億円超え、政策の転換を」…P12
- 4 菊池 勝秀 「このままではTSMC進出の波及効果を受けられないのでは」…P13
- 5 市原 正 「市民から指摘を受けた塵芥車の保管場所への対応は」…P13
- 6 杉谷 保信 「『すぐやる課』設置を検討できないか」…P14
- 7 甲斐純一郎 「阿蘇市経済の活性化策を問う」…P14
- 8 園田 浩文 「直轄砂防堰堤事業の進捗について問う」…P15
- 9 五嶋 義行 「中九州横断道路は波及効果の高いルート of 要望を」…P15

畜産農家に再度の支援を



竹原 真理子

竹原 畜産農家は、物価高騰等の影響を受けて著しく経営難となっているが、市はどう把握しているか。

佐伯農政課長 依然として子牛の市場価格の低迷が続いており、令和2年と比較し、褐毛14戸、黒毛11戸酪農2戸の畜産農家が減少しています。

竹原 畜産農家の減少を市はどう捉えているか。

農政課長 物価高騰等による和牛消費の落ち込みや、飼料代高騰に対する肥育農家の買い控えが価格下落の大きな要因と考えています。

竹原 畜産離れが加速すると草原維持はもろろん、WCS作付面積全国トップを誇る阿蘇市の農業形態が崩壊する。畜産経営の将来を見据えた市の支援は。

農政課長 県の自給飼料増産総合対策事業を活用して、畜産農家の経営継続への支援に繋がっていきます。

竹原 耕畜連携、自然循環型農業に畜産農家は重要な役割を担っている。ぜひ畜産を続けられるような支

援をお願いしたい。市長の見解を。
佐藤市長 畜産農家の苦悩は受け止めています。国や県に実情を訴え草原・畜産・水・農業を守りながら持続可能な農業を創り上げていきたいと考えています。

阿蘇市の子宮頸がん検診について
竹原 子宮頸がんは、がんの中では比較的若い世代に発症しやすい病気と理解しているが、本市での検診率は。

山内健康増進課長 本市の検診率は24・3パーセントと県内平均より高くなっています。

竹原 子宮頸がんになり患した場合のリスクと予防法は。

健康増進課長 妊娠を希望される方の場合には影響があるため、ワクチン接種とがん検診の双方が重要となります。感染防止については、国の定めにより、小学校6年生から高校1年までの女子を対象としたワクチン接種を推進しています。



黒牛の飼育

TSMC関連での阿蘇市の現状は



中川 文久

中川 県内各地に半導体関連企業
が次々に進出しているが、阿蘇市の
現状と誘致活動は。

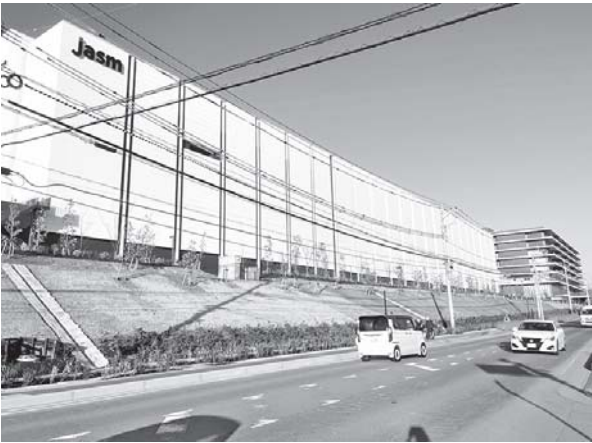
石松まちづくり課長 現在まで阿
蘇市へ工場関係で希望される企業は
見られない状況です。やはり国立公
園内や農業振興地域による規制、一
定の面積が必要などの要件がありま
す。一方で見方を変えてI T関連事
業者の誘致を行っており、現在数社
の進出が予定されています。

中川 I T関連は阿蘇の自然環境
への影響を考えると誘致は良いと思
うが対策は。

まちづくり課長 工場の一歩の心
配は排水ですが、I T関連の会社につ
いては基本的に心配ないかと思いま
す。国のデジタル田園都市国家構
想の交付金を活用して今後も誘致に
取り組んでいきます。

中川 地元高校生の半導体関連産
業への関心と就職の状況は。

藤井教育課長 阿蘇中央高校には
昨年ごろから半導体製造やメンテナ
ンス関連の会社からの求人がある



2月下旬に開所予定のTSMC工場

おり、生徒の関心も高いとのこと
です。希望どおりの就職にはまだ繋
がっていないという状況です。

中川 中学生のときから半導体関
連に関心を持ってもらい、子供たち
が阿蘇市内に住み続けながら、仕事
ができる環境づくりが人口減少の歯
止めにもなると考えるが。

教育課長 キャリアスタートウ
イークの取組みで実行委員会を作っ
ており、中学2年生を対象にキャリ
ア教育を実施しています。

その中で職場体験がありますので
今後、半導体関連企業からのエン
トリーを受けて、環境づくりをして
いきたいと考えています。

基金50億円超え、政策の転換を



谷崎 利浩

谷崎 九州北部豪雨・熊本地震・
新型コロナウイルス感染症対策対応
の総額と一般財源（阿蘇市負担）か
らの支出は。

廣瀬企画財政課長 豪雨災害では
支出の総額が約48億円、そのうち一
般財源が約1.5億円。熊本地震では総
額約113億円、うち一般財源が約12億
円。コロナ対策では総額約50億円
うち一般財源約2500万円です。

谷崎 基金は災害で減っても交付
金で回復している。昨年度末の基金
残高は約50億円で、実質収支（繰越
金）14億円と合わせると64億円に
なる。これは、一年分の交付税に相
当するかなりの財源である。更に、実
質の市債約58億円から基金を引くと
差引き負債は約7.5億円である。災
害から財政は回復しており今は弱
った経済への対策を行う時では。

企画財政課長 災害復旧に伴う借
入等により公債費が年間20億円を
超えており、発災時の一般財源、基
金繰入金のみではなく将来的
な公債費の負担も併せて検証する必
要がある。

要があります。現時点では財政運営
に余裕があるとは考えていません。
佐藤市長 災害に対し財政調整基
金を出来るだけ使わないように、い
かに有利な交付金、補助金をもって
臨むかという事が私の姿勢であり
その結果、基金も増えていますが
いつまた大型災害が起きるかわかり
ません。財政状況は、まだまだ予断
を許さない状況で、市民が安心に暮
らせる阿蘇市を維持する運営のため
に、しっかりと協力を固めて今後もやっ
ていきます。

他に「スクールバス待合所」「阿
蘇小学校の保護者送迎時の動線見直
し」について質問がありました。

一般会計	実質収支	基金合計	計
平成17年度	4億4,788万円	14億6,641万円	19億1,429万円
平成22年度	6億5,566万円	25億5,735万円	32億1,301万円
平成23年度	7億2,144万円	31億6,559万円	38億8,703万円
平成24年度	6億0,545万円	24億4,594万円	30億5,139万円
平成25年度	8億2,495万円	35億2,336万円	43億4,831万円
平成26年度	7億3,186万円	23億0,157万円	30億3,343万円
平成27年度	8億6,068万円	18億3,118万円	26億9,186万円
平成28年度	12億5,606万円	18億1,978万円	30億7,584万円
平成29年度	11億8,384万円	29億8,119万円	41億6,503万円
平成30年度	13億8,424万円	40億7,873万円	54億6,297万円
令和元年度	8億0,671万円	48億1,992万円	56億2,663万円
令和2年度	10億9,381万円	46億8,399万円	57億7,780万円
令和3年度	13億3,448万円	46億5,491万円	59億8,939万円
令和4年度	14億2,304万円	50億1,701万円	64億4,005万円

基金の推移

このままではTSMC進出の波及効果を受けられないのでは



菊池 勝 秀

菊池 熊本県では、TSMC進出を「ビッグチャンス」ととらえ、菊陽町や近隣市町村とも連携して工業団地の造成や道路の整備などを進め菊陽町や近隣で大幅な人口増加となっている。人口増を見込んだ本市の取組み状況等は。

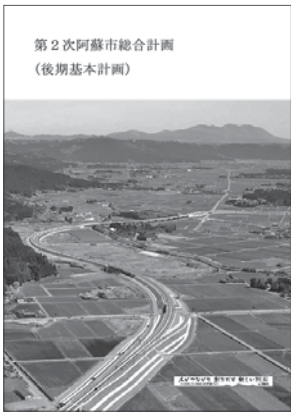
廣瀬企画財政課長 北側復旧道路の開通による地理的優位性もアピールしながら、不動産の動向や企業ニーズ、求人状況など関係団体等と意見交換を重ね、新しい情報を入力するなど、今後の展開に生かしていく計画です。

菊池 本市の人口は直近で2万4599人。ここ2年間で約670人も減少しており、「第2期阿蘇市総合戦略」の令和7年目標2万5000人の達成はかなり厳しい。課題解決にはTSMCなくしてあり得ない。県知事も波及効果を県内全域に広げたいとしているが、県南や県北にあつて、なぜ本市に効果が来ないのか。県庁内に令和4年度、菊陽町など新工場周辺市町村を対象とし、企

業進出や住宅誘導等を促す半導体拠点推進調整会議が設置され、研修会には対象外である八代市や御船町なども参加している。どこも恩恵を受けようと必死の姿勢である。本市も本研修会等に参加し、積極的に提言等を行ってはどうか。

佐藤市長 本市にとってプラスになることであれば積極的に参画し、確実な情報を得ながらこれから進めていくべきと思っています。

他に「買い物困難者等の解消に向けた取組み（移動販売車を確保し販売業務委託等）」について質問がありました。



阿蘇市総合計画と総合戦略

市民から指摘を受けた塵芥車の保管場所への対応は



市 原 正

市原 市民の方から「塵芥車（ゴミ収集車）の車庫証明と保管場所について市役所に指摘をした」と聞いたがどんな指摘だったのか。

森永市民課長 本年3月、「塵芥車の車検証の住所は市役所だと思いが、市役所敷地内に駐車していないのではないか。適正な管理がなされていない。」との指摘を受けました。

市原 その指摘への対応は。

市民課長 市役所内にスペースの確保が出来ないため、収集運搬の委託先の事業者が保管を行っていました。ご指摘を受け、関係課とも相談し市有地である役犬原の野菜集出荷場跡での保管について阿蘇警察署及び関係機関と協議を行い、適正な手続きを終えて10月から保管場所として使用しています。

市原 市民の方からの指摘にしっかりと対応し、きちんと結果を出した市民課の取組みは高く評価する。市民部長の見解を。

宮崎市民部長 市民課が早急かつ慎重に対応し、適切に手続きが完了

し安堵しています。

市内河川の管理と整備について

市原 市の管理する河川の数は。

中本建設課長 市の管理河川は準用河川が13本、普通河川が177本で合計190本になります。

市原 管理河川の多さに驚いているが、危険個所の把握などは建設課だけで出来るのか。

建設課長 職員のパトロールだけでなく、区長さんや河川に隣接する地権者の方々から情報提供が重要となっています。皆様から協力を得ながら、適切な維持管理に努めます。



塵芥車の保管

「すぐやる課」設置を検討できないか

阿蘇市経済の活性化策を問う



杉谷 保信

杉谷 阿蘇市でも色々な市民のニーズに対応するために「すぐやる課」の設置はできないか。

和田総務課長

市民生活に身近な問題である道路やスズメバチの駆除等に対して、たらい回しにせず迅速に解決することを目的に、千葉県松戸市が全国初の「すぐやる課」を設置しました。一時は300を超える自治体で同様の部署が設置されましたが、時代の変化を経て取組みの見直しが行われています。本市では市民からの相談や要望等に関して現状の組織体制の中で担当部署が責任をもって対応していることから、新たな課の設置は検討していません。

杉谷

いつまでも住み続けたい阿蘇市を創るためには、必要な機構改革もあると思うが、市の考えは。

総務課長

現在は、人口減少、少子高齢化、感染症の蔓延や災害の発生など、将来の予測が非常に困難な時代です。複雑多様化する行政課題にスピード感をもって対応する必要があります。

そのためには、職員の能力開発、人材育成にも不断に取組み、常に様々な状況変化を読み取り、臨機に対応できる準備を進める必要があります。「すぐやる課」をはじめ、各自治体の取組みについても、今後の組織機構を見直すうえでの参考とします。

他に「GIGAスクール」、「内牧地区の公衆トイレの問題」について質問がありました。



相談窓口 (イメージ)



甲斐 純一郎

甲斐 TSMC進出による阿蘇市への経済効果とパブリック・リレーションズ推進本部の現状は。

石松まちづくり課長

交流人口の増加により、道の駅をはじめ一定の経済効果が出ています。

廣瀬企画財政課長

推進本部は三つの検討部会で構成しています。観光交流部会は台湾プロモーションを2回実施し、観光周遊ルート開発に向けたモニターツアーを開催しており、阿蘇の知名度向上と誘客を期待しています。

企業連携部会では、県や国、不動産会社などと意見交換を重ね、マッチングの可能性を模索しています。移住・定住促進部会では、移住支援策を創設し、多言語を含むパンフレットを作成するなど、受入態勢の強化を図っています。

甲斐

その分野ごとに専門家と連携し、推進チームのグレードを上げるべきでは。

和田副市長

TSMCにつきましては、非常に大事な転換点となること

とから、必要に応じ、民間の専門家・団体に意見を聞きながら政策に反映していきます。

ふるさと納税・返礼品の取り組みは

甲斐 寄附額やPR手法等の現状は。

石松まちづくり課長

今年3億円程度の寄附を見込んでいます。PRは、いくつかのインターネットのサイトを活用しており、主に楽天内の検索連動型広告に注力しています。

佐藤市長

サイトを見て阿蘇市に対しご厚意を頂き、寄付等にご協力頂いていることに感謝を申し上げます。

甲斐

返礼品に関する検討委員会や協議会をつくる計画は。

まちづくり課長

返礼品を出す店舗の方々と協議会を作り、地域が一体となることを考えています。



ふるさと納税返礼品

直轄砂防堰堤事業の進捗について問う



園田 浩文

園田 国の砂防堰堤事業は、150億円の予算で平成30年から令和9年までの10年間、阿蘇全域の25箇所まで計画されているが、阿蘇市内での工事進捗の状況は。

中本建設課長 完成箇所は阿蘇全域で8箇所です。そのうち阿蘇市内が6箇所、事業途中の工事が阿蘇全域で10箇所、その内4箇所が阿蘇市内の工事です。

園田 今後5年間での工事箇所の追加や、予算の増額についての情報は。

建設課長 工事18箇所、詳細設計2箇所の合計20箇所の予算については、150億円から250億円に増額されています。現在一期末ですが、次の10年間での増設についても要望していきます。

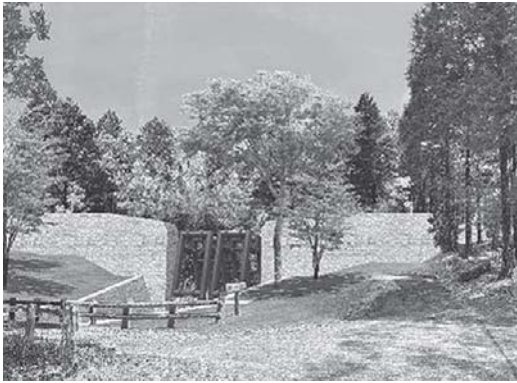
園田 旧熊本市教育キャンプ場付近の砂防堰堤工事の着工時期、完成時期はいつ頃か。又、大型バスの乗り入れに關しての調整は進んでいるのか。

建設課長 工事用道路については

本年度から用地交渉に着手します。**藤井教育課長** 砂防堰堤は「防災教育」の場として子供達にも見て頂く為、大型バス進入路やバスの駐車場の整備を要望しています。令和6年度の着工、令和7年度の完成を目指して進めていきます。

園田 完成後の具体的な構想は。**教育課長** 防災教育の場以外にまだ具体的な構想はありませんが国の事例として、砂防堰堤を利用したクライミングやプロジェクトンマッピングなどがありますので、令和6年から関係課との検討を行っていきます。

他に「旧ひのくに会館」について質問がありました。



砂防堰堤 (完成イメージ)

中九州横断道路は波及効果の高いルートの要望を



五嶋 義行

五嶋 中九州横断道路は、大分から熊本市へ至る全長120キロメートルの道路であるが、起点となる大分側が先行して開通し、現在の開通率は計画の約3割である。阿蘇谷を通るルートは依然として未定であるが10月の市政報告会の中では、中九州横断道路の阿蘇谷ルートを要望中とあった。どの様なルートを要望しているのか。

中本建設課長 現在、中九州横断道路の促進期成会があり、阿蘇市長が会長を務めています。要望の内容は、計画段階評価への早期着手による、複数ルート案の検討についてです。

五嶋 波及効果として、市と市民が最も恩恵を受けるのがインターチェンジであると思うが、それについての見解は。

建設課長 国道や県道へのアクセスなどを考慮して、波及効果の最大化を目指して要望していきます。

五嶋 建設の容易性ということでは地盤の問題を重要視している。阿蘇

国道維持出張所に確認したところ北側復旧ルート建設の際、黒川から南側の地盤が悪かったとの事であった。黒川より北側の安定した地盤での整備を望むが、市の見解は。

建設課長 地盤については安全な交通の確保のため、しっかりと調査が実施されるものと思います。北か南かは別にしまして、今の意見も参考に情報提供は国にさせていただきたいと思えます。

五嶋 阿蘇市も検討委員会をつくって、ルート案の検討を行ってはどうか。

建設課長 ルートは白紙の状態であり、検討委員会も含めていろんな案が必要だと思っています。

他に「阿蘇市文化ホールに關する意見書」「狩尾幹線のルート変更」について質問がありました。



北側復旧ルート (二重の峠トンネル)